

# 話したい、聞きたい、知りたい子どもを支える英語教育の研究

～英語活動とイマージョン教育を通して～

岡山市立石井小学校 教諭 今村 恵子

## 1 研究の概要

本校では、平成17年度に岡山市からイマージョン教育推進モデル校の指定を受け、外国人講師によるイマージョンの授業が始まった。平成18年度から、研究主題を「話したい、聞きたい、知りたい子どもを支える英語教育の研究」として、英語活動とイマージョン教育の研究を進めてきた。英語活動では、市ALTやイマージョンプログラム担当教師による授業を通して日常的な会話をしたり、外国の生活や文化に触れたりしている。また、イマージョン教育では、子どもたちが無理なく英語を使ってそれぞれの教科を楽しんでいる。



本年度は、そうした成果を踏まえ、自分から積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度や、異文化を理解し尊重する態度をもち、英語による日常的な会話や簡単な情報の交換ができるような基礎的・実践的なコミュニケーション能力を身に付けた子どもの育成をめざし、研究を進めている。

## 2 実践事例

### (1) 効果的な指導法の研究

イマージョン教育で行われる授業は英語で進められるため、子どもたちが言葉の意味や指示の内容を推察し、つかめる工夫が必要になってくる。そこで、具体物の掲示や演示をしたり、授業の中で子どもたちが英語で話す場を意図的に設けたりすることが大切である。

英語理解を助けるための工夫

学習活動や教材の工夫

### (2) Target Language を入れた年間計画(プランカード)の作成

子どもたちに理解させたい言葉は、教師が意識し意図的に聞かせる必要がある。そこで、単元で使う学習用語や指示の中から理解させたいものを拾い出し、Target Language として明確にした。その上で、イマージョン授業を行う教科及び英語活動の年間計画(プランカード)を学年、教科、単元毎に作成し、授業の打ち合わせや言語材料の確認に使っている。

### (3) 評価方法の研究

イマージョン教育の成果を確かめ、より良い授業にしていくため、外国人講師がクラス全員に一齐に聞かせる形の Hearing Test を、形式を変えて9月と11月の2回実施した。どちらも日頃の授業で特によく使われた単語や指示語を Target Language の中から選び、問題を作成した。

## 3 まとめ

成果は、毎時間の授業で外国人講師と学級担任が授業の目的や内容、Target Language を丁寧に打ち合わせ、丹念に準備を積み重ねてきたことで、子どもは日本語を介さずに外国人講師の発する英語を聞き取り、自分の使える英語を総動員して話す力が着実についてきたことである。

また、授業の中で絶えず先生や友達からプラスの評価をもらうことで、明るく前向きな子どもが確実に育ってきている。さらに、様々な機会を通して外国の文化や習慣、雰囲気に触れることは、子どもの経験や視野を広げる上で大きな役割を果たしている。

